こころ便り

第281号
令和5年8月

〒679-4343
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八-十二
株式会社 新宮運送グループ
代表／木南 一志
kiminami@shingu.co.jp
電話0791・75・1212

新宮運送ホームページ

ゆでガエル

暑い夏がやってきました。いろんな工夫をしながら倒れないように乗り切ってまいりましょう。

本社の正面に弊社会長夫妻の作品「無事カエル」が鎮座しています。真夜中に一人で出発したトラックが無事に帰ってくることを願いながら作ってくれました。いつも家族のような心で一人ひとりが無事に帰ってくれることを願うのは、私も同じです。ところが、それを覆していくのが「ゆでガエル」という存在です。

経営計画書に「ゆでガエルの喩え」を次のように掲載しています。

水を張った鍋の中に蛙を入れ、下から火をつけて徐々に熱していくと、やがて熱湯の中で死んでしまう。最初から熱湯に入れると、強い勢いで飛び跳ねて、鍋から逃げ出す力を持っているのに、居心地のいいぬるま湯からは、ついに死ぬまで動こうとしないというたとえ

実力を持ちながら実行しないことで、イザの時にも役立たない。どこかの国のようで恐ろしくもあります。事故や病気は「まぁ、いいか」の習慣が作り上げていくものでもあるのです。かと言って、あなたのことを責め立てているわけではありません。交通ルールと同じで守っているから大丈夫、とは言えないのが現実の社会です。いい環境にしたいと願う心があるから、暑い夏にはクーラーが、寒い冬にはストーブが開発されたのですから、ひと肌のぬるま湯が悪いわけでもないのです。

ゆでガエルにならないためのお呪いがあります。それは、人から何かしてもらったとき、「ありがとうございます。」と感謝を口にすることです。ペコンと頭を下げるだけから始まり、手を上げたり声に出したりと工夫をしながら進化させていくのです。コンビニのレジでも普通に「ありがとう」と言えるようになってくると、少し格が上がります。金を払って買ってやっていると思って、何も言わないとゆでガエルに戻り始めるのです。

本当の意味で実力のある人は、常に謙虚で誰が接しても分け隔てがありません。そのような力を持つ人は、心から感謝をすることが普通に実行できます。口先だけのうちは、ぬるま湯そのままですから抜け出せなくなります。

心から感謝できる人になろうと、常に努力を重ねるからこそ、ゆでガエルにはならないのです。やらない人には分かりません。実行して、続けていくことでしか身につかないのです。

被災地にこころを寄せながら

木南　一志　拝

尋常小學國史　上卷

第六　聖徳太子②

佛教をおこしたまふ

これよりさき、太子の御祖父第二十九代欽明天皇の御代に、佛教始めて百濟よりつたはれり。太子は深く之を信じたまひて、多くの寺を建て、又御みづから教を說きたまひしかば、これより佛教大いに國内にひろまり、建築などもいちじるしく進みたり。太子の建てたまひし寺の中にて最も名高きは、大和の法隆寺にして、其のおもなる建物は昔のまゝなりといはれ、わが國にて最も古き建物なり。

法隆寺

人々太子をしたしみたてまつる

かくの如く、太子は大いにわが國の利益をはかりたまひしが、いまだ御位に卽きたまはざる前に、うせたまへり。此の時、世の中の人々は皆、親をうしなへるが如く、なげきかなしみたりといふ。

第七　天智天皇と藤原鎌足①

蘇我氏の無道

推古天皇の御代の前後に、最も勢ありしは蘇我氏なり。蘇我氏は武内宿禰の子孫にして、代々朝廷の政治にあづかり、勢にまかせて、しだいに我がまゝなるふるまひ多かりき。蘇我蝦夷は第三十三代推古、第三十四代舒明、第三十五代皇極の三天皇に仕へたてまつりしが、心よろしからぬものなれば、ほしいまゝにあまたの人民をつかひて、あらかじめおのれ等父子の墓を作り、おそれ多くも之を陵といへり。此の時、聖德太子の御女は大いにいかりたまひて、「天に二つの日なく、國に二人の君なきに、いかなればかゝる我がまゝをするぞ。」と仰せられたり。蝦夷の子入鹿はなほも思のまゝにふるまひて、おのれに緣ある皇族を御位に卽けたてまつらんがために、聖德太子の御子孫をほろぼし、遂におのが家を宮といはしめ、子等を王子といはしむるに至れり。まことに朝廷をおそれざる無道のことといふべし。

つづく

NPO法人　愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただいております。